



産業医が診る働き方改革 増補改訂版

編者：産業医科大学 発行：西日本新聞社 定価：(818円+税)

新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言は解除された。働き方改革が提唱された時には、本当に進んでいくのだろうかと危惧した。しかし、今、環境こそが人と社会を変えることを実感している。

今の環境で本書をあらためて拝読すると、第1章では、産業保健の基礎に触れながらも、働き方改革の視点から、働く環境と働き方にいかにアプローチするかを、具体的な職場をイメージしながら、考え方や方策が書かれている。職場環境に注目したこれらの視点は、これからが働き方改革の本番になるであろうこの時期に非常に参考になる。第2章では、生活習慣や疾患別の視点から仕事と疾患にどのように向き合うか

が、臨床や衛生の専門家を交えながらやさしく解説されており、両立支援の視点からも多くの方々の参考になる部分であろう。特に職業性アレルギーやアトピーなどの仕事との関連では見逃されやすい事象も取り上げているのが良い。第3章では、「適切に働く事は健康に寄与し、健康的に働く事は社会と自分自身に貢献することになる」との認識に立ち、産業医以外の専門職と産業保健制度の国内外の現状を解説している。

本書は、産業保健とその役割を平易な言葉で解説した一般書として、産業保健スタッフや関係者の入門書として、新たな視点に気づく産業保健の専門書として、お勧めしたい一冊である。

どひ せいたろう
土肥誠太郎

(三井化学㈱ 本社健康管理室長・統括産業医)



使える! 健康教育・労働衛生教育65選

編者：森 晃爾 発行：一般社団法人日本労務研究会 定価：(3,800円+税)

働き方改革関連法によって改正された労働安全衛生法において、産業医・産業保健機能が強化されるなど、産業保健スタッフに求められる役割は年々拡大している。安全衛生分野にとどまらず、労働時間管理などの人事労務管理分野など、幅広い分野へのサポートも期待されているのではないだろうか。

本書は、多忙な産業保健スタッフ向けの実務書として刊行された。「健康教育・労働衛生教育」は、事業場における産業保健活動の重要な柱のひとつで、本書ではこの教育で取り上げることが多い65のテーマごとに、効果的な教育を行うためのポイント解説と、実

際の教育を展開するための素材がまとめられている。付属のCD-ROMにはスライドデータが収録されているので、利用者がアレンジした上で、社内教育に活用することができる。筆者も事業場から教育を依頼されることが珍しくないが、準備には意外と時間がかかる。本書の積極的な活用をお勧めしたい。

取り上げられたテーマは「両立支援」、「ストレスチェック」、「ロコモティブシンドローム」など、最近のトピックスも選定されており、役立つ一冊となっている。KYTのポイントなど、労働安全分野の基本的なテーマが追加されれば、さらに使い勝手がよくなるだろう。

いなば りょういち
井奈波 良一

(岐阜産業保健総合支援センター所長)

編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長	相澤 好治	北里大学名誉教授	興梠 建郎	新潟産業保健総合支援センター所長
	大西 洋英	独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事	田中希実子	元NTT東日本健康管理センター看護部長
	加藤 隆康	豊田衛生管理者研究会顧問	高倉 俊二	厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
	神村 裕子	公益社団法人日本医師会常任理事	浜口 伝博	ファームアンドブレイン社代表/産業医
	甲田 茂樹	独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理	東 敏昭	一般財団法人西日本産業衛生学会特別顧問